



谷原小だより 10月号

平成 23 年 10 月 3 日
練馬区立谷原小学校
校長 眞瀬 敦子

秋三題

校長 眞瀬 敦子

シルバーウィーク明けの朝礼で子供達に「いくつ秋がみつけれられますか？」と聞いてみましたが、風の音、空の青さ、流れる雲、朝礼台に立っていても、聞こえる音、見えるものの全てに秋が宿っているような朝でした。“暑さ寒さも彼岸まで”と言いますが、今年の秋はまさに暦通りに訪れたようで、我が家の近くの公園にも突然彼岸花が咲き、キンモクセイの香りが漂い始めました。

そんな素晴らしい秋晴れの中、5年生の子供達と9月28日から三日間、武石移動教室に行ってきました。今年の5年生は担任の周到な指導の下、事前に6年生から武石の事を聞いたり、自分たちで調べたりしながら「移動教室へ行きたい」「行って頑張るぞ!」という気持ちを高めていきました。

正直なところ5年生としては幼く、沢山手を掛けてあげないといけない子供達でしたが、移動教室での元気な挨拶、一生懸命な行動、友達との協力…。頑張る様子をバスガイドさん、牧場や果樹園の方たち、学園の方々、一緒になった秋の陽小の先生方、出会った皆さんが誉めてくださいました。素晴らしい自然を身体一杯で味わって、一回り成長して帰ってきた子供達でした。

改築工事が本格始動して1ヶ月、まっさらになった校庭に太い支柱が立ち始めました。ショベルカー、クレーン車、ダンプカー、次々現れる超大型の“働く車”には、子供達ならずともわくわくしてしまいますが、今度は支柱を埋めるための、サンダーバード（御存知ですか?）に出てくるような凄い車が登場しました。今時の工事では騒音を出さないため、支柱を上から打ち込むのではなく、ドリルのようにねじりながら埋め込むのだそうです。そういえば、予想以上に校庭に前の工事の時のガラが埋められているのがわかったときも、騒音を極力出さないためテントを張って、その中で掘り出す工事をしていました。

地域の皆様にご迷惑をお掛けし、子供達の学校生活にも色々支障の出る工事ではありますが、最新式の大工事が目の前で見られ、自分達の学校が出来上がっていくのを見るのは楽しいものです。

芸術の秋。皆さんは地元の練馬美術館にどれくらい足を運んでいらっしゃいますか? 9月にやっていたマドリッド・リアリズムの異才磯江毅の特別展は本当に素晴らしいものでした。今度は全く異なる、やまと絵の松岡映丘（柳田國男の兄弟）の展覧会をやるようです。

大泉の牧野記念庭園は、今彼岸花が真っ盛りです。光が丘四季の香公園の薔薇は、これから見頃を迎えます。10月28日～30日には、石神井公園ピアレスの中にある区民支援センターで、伝統工芸展が開かれます。江戸刺繍や表具、木彫、彫金、着物や組紐など昨年初めて行ってみましたが、小規模ながらもなかなか見応えのあるものでした。是非お休みの日にでも行ってみてください。

是非といえば、森田善朗前校長先生が、今年から清瀬市郷土博物館の館長をいらっしゃるとの御存知ですか? その森田先生が初めて企画した、熊谷元一の回顧展「じいちゃんの見たもの描いたもの」が、8日～23日まで開かれます。

熊谷元一氏は、昨年11月に101歳で逝去した童画家で写真家でもあった方です。福音館から出版された絵本『二ほんのかきのき』をお読みになった方も多いのではないでしょうか。写真でも『一年生 ある小学教師の記録』で第1回毎日写真賞を受賞するなど、その温かい人柄を彷彿とさせる作品は、どれも高い評価を得ています。郷土博物館は、清瀬駅北口から10分位美しい櫛並木を行ったところにあります。森田先生の優しい笑顔も待っていることと思います。